

多世代に行き交わる イノベーションキャンパス



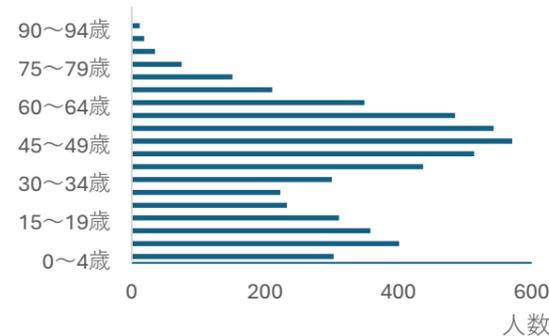
計画背景

本課題は、天久保キャンパスと連携する新たな学習・研究拠点を、つくば市吾妻地区に計画するものである。敷地は市街地や公園に隣接し、大学のみならず研究機関・企業・行政など多様な主体が交わる可能性を持つ立地である。教育効果の向上や共同研究を促進する空間構成を提案するとともに、既存の天久保キャンパスの再生・再活用を視野に入れ、二拠点の関係性を活かした未来のキャンパス像を構想する。

計画地の分析

本計画地は、保育園・小学校・大学が隣接する教育集積エリアに位置し、日常的に多世代が交差する環境にある。さらに、つくば駅に近接し観光客の往来も見られることから、地域内外の人々が出会う結節点としての可能性を有している。加えて、バス循環網が整備されており、高い交通利便性を備えた場所である。

つくば市吾妻 人口推移



0~4歳や10~14歳、40~50代の中年代層も多いことが分かる。これは子育て世帯が多く住んでいる地域である。

人口構成から、子ども/親世代/若者が自然に関わり合える空間が必要だと感じた。子どもが多いことから、安全性や見通しの良さを確保だけでなく若者が自由に過ごせる空間も求められると考える。



